広島							l
		専門学校	開講年度	平成30年度 (2	2018年度)	授業科目	仏語
科目基礎	性情報						
科目番号		0026			科目区分	一般/選	
授業形態		講義			単位の種別と単位 対象学年		: 2
開設学科			一般教科			4	
開設期					週時間数	1	
教科書/教	材	第三書房	「初めてのフラン	·ス語 Tome Un .	Francois ROU	SSEL 丸川誠司	
担当教員		前田 弘隆					
(2) フラン (3) 簡単な (4) 英語と	ノス語の綴り ノス語の表現 よ日常表現を イの類似占・)と音の関係を 脱構成の基本を と身につける。 相違点につい 葉を支える文化	覚える。 学ぶ。 て知識を得る。 どについて理解する	3.			
ルーブリ	Jック		理想的な到達レ	ベルの日本	標準的な到達レヘ		土列港1.公里の日ウ
			理想的な到達レク		標準的な到達レバ 既習の単語のつつ		未到達レベルの目安 既習の単語のつづりが読めない
評価項目2			冠詞・名詞・形容の語尾変化が分割	<u>か続める</u> 容詞の性別や動詞 かり、正しく変化	冠詞・名詞・形容の語尾変化が分か	 詞の性別や動詞	
評価項目3	2		させられる 簡単か実現が口	ゴブ発託ブキマ			例文の口頭発話ができない
☆1川県日3)		簡単な表現が口頭 英仏間の語形や 違点が理解でき	文型の類似点・相	教科書の例文を口 英仏間の語形や文 解できる		
学科の至 教育方法		目との関係		<u> </u>	/JF C C &		1
₩₩		(1) 国際的 (2) 英語に (3) フラン	な視野拡大の一歩 次いで二番目に使 ス語の基本を知り	として、英語以外 用域のひろいフラ 、簡単な会話表現	の外国語に触れる。 ンス語の初歩を学習 を身につける。	する。	
概要		(1) 国際的 (2) 英語に (3) フラン	な視野拡大の一歩 次いで二番目に使 ス語の基本を知り	として、英語以外 用域のひろいフラ 、簡単な会話表現	の外国語に触れる。 ンス語の初歩を学習 を身につける。	lする。	
概要 授業の進め	か方・方法	(2) 英語に (3) フラン 講義を行う	次いで二番目に使ス語の基本を知り	用域のひろいフラ 、簡単な会話表現	ンス語の初歩を学習を身につける。		
授業の進め	か方・方法_	(2) 英語に (3) フラン 講義を行う	次いで二番目に使ス語の基本を知り	用域のひろいフラ 、簡単な会話表現	の外国語に触れる。 ンス語のが歩を学習を身につける。 主対象の授業である 画的なの時間が重要		
授業の進& 注意点		(2) 英語に (3) フラン 講義を行う	次いで二番目に使ス語の基本を知り	用域のひろいフラ 、簡単な会話表現	ンス語の初歩を学習を身につける。		
授業の進& 注意点		(2) 英語に 対 講義を行う (1) 電学をな (3) 新たな	次いで二番目に使 ス語の基本を知り 。	用域のひろいフラ 、簡単な会話表現	ンス語の初歩を学習を身につける。 生対象の授業である 画的な自守語が重要 や例文の暗記が重要	こと 経保すること。 記であること。	
		(2) 英語に 講義を行う制 (1) 電学修な (3) 新たな	次いで二番目に使 ス語の基本を知り 。 御は工学科4年生・ は位料目語の学習であ が知語の学習であ がある。	用域のひろいフラ 、簡単な会話表現	ンス語の初歩を学習を身につける。 主対象の授業である 動的なの時記が重要 が例文の時記が重要	こと 経保すること。 であること。 シラバをの到達目標 シラバカ a b e	
授業の進& 注意点 授業計画		(2) (3) 講義 で (3) 新表 で (3) 新表 で (3) 新表 で (3) 新来 で (3) 新来 で (3) 新来 で (4) は (4) は (4) は (4) は (5)	次いで二番目に使 ス語の基本を知り 。 御は工学科4年生・ は位料目語の学習であ が知語の学習であ がある。	用域のひろいフラ 、簡単な会話表現 流通情報学科4年4 をよく理解し、計 るので、学習項目	ンス語の初歩を学習を身につける。 主対象の授業である 動的なの時記が重要 が例文の時記が重要	こと 全保すること。 であること。 であること。 シラーア シラーア し読むことが出	票 平価方法についての説明。 t の読み方、綴りと発音の関係を理解 k る。自己紹介ができる。挨拶が言え
授業の進を注意点 授業計画		(2) 英語にン 講義を行う制単 (2) 学所たな 週 担	次いで二番目に使 ス語の基本を知り 。 御は工学科4年生・ は位料目語の学習であ が知語の学習であ がある。	用域のひろいフラ 、簡単な会話表現 流通情報学科4年4 をよく理解し、計 るので、学習項目	ンス語の初歩を学習を身につける。 主対象の授業である 動的なの時記が重要 が例文の時記が重要	こと 全保すること。 であること。 であること。 シラーア シラーア し読むことが出	

		4週	2 名詞の性数 冠詞 動詞etreとavoirの活用 動詞 venirの活用 形容詞の性数 疑問文 所有形容詞			せが分かる。動詞 。形容詞の性数変 とができる。 	名詞と冠詞、所有名詞と冠詞、所有形容詞の組み合わせが分かる。動詞etre avoir venirが正しく活用できる。形容詞の性数変化が正しくできる。疑問文を作ることができる。 形容詞の組み合わせが分かる。動詞etre avoir venirが正しく活用できる。形容詞の性数変化が正しくできる。疑問文を作ることができる。			
		5週 6週 7週	前期中間試験							
		8週	答案返却と解説							
		9週		の活用 指示形容 司強勢形 近接未来	司 前置詞と冠詞: さ近接過去 否だ	疑問形容詞quelを pouvoir vouloir p voukoirを用いた。 形の文が作れる。	:含む文が理解 partirが正しく 文が作れる。ě	できる。動詞finir voir 活用でき、pouvoir 複合過去形を用いて過去		
	2ndQ	\								
		10週								
		11週 12週								
		13週	-							
		14週								
		15週	前期末試験							
		16週	答案返却と解説							
		1週	4 疑問形容詞quel 動詞finir voir pouvoir vouloir partirの活用 命令形 直説法複合過去			疑問形容詞quelを pouvoir vouloir voukoirを用いた。 形の文が作れる。	:含む文か埋解 partirが正しく 文が作れる。複	できる。動詞finir voir 活用でき、pouvoir 複合過去形を用いて過去		
	3rdQ	2週	+							
		3週								
		4週								
		5週								
		6週								
		7週	後期中間試験							
後期		9週	答案返却と解説 5 代名動詞 中性代名詞 比較級と最上級 疑問代名 詞			田 代名動詞が正しく を理解する。比較 疑問代名詞を含む	代名動詞が正しく活用でき、文が作れる。中生代名詞を理解する。比較級・最上級を表す文が理解できる。 疑問代名詞を含む文が理解できる。			
	4thQ	10週								
		11週								
		12週								
		13週								
		14週	学年世 計							
		15週 16週	学年末試験 答案返却と解説							
評価割る	<u>-</u>	1 1 0 1/13								
7 I IMI (1) F	-	 試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計		
総合評価語	割合	60	0	0	10	0	30	100		
基礎的能力		60			10			1		
	カ	00	0	0	10	0	30	100		

分野横断的能力	ln	ln	Λ	ln	ln	ln	l n
ノノエディ央ロハロブガロノノ	0	10	U	0	10	10	U